

Q24 辺野古新基地の建設予定地の軟弱地盤と活断層の問題について教えてください。

A

辺野古新基地の建設予定地の大浦湾の海底には、非常に緩く軟らかい「軟弱地盤」※1が広範に分布し、最深で水面下90mにまで存在しています。

そのため、新基地を建設するためには、7万本以上もの杭を打ち込む大規模な地盤改良工事が必要ですが、国内の地盤改良船は、水面下70mまでしか地盤改良工事の施工実績がありません。

さらに、新基地建設の予定地には、埋立部分と陸地の部分があり、埋立部分には軟弱地盤と堅い地盤が混在していることから、地盤が不均一に沈む「不同沈下」※2が長期にわたって発生します。

そのため、仮に新基地が完成しても、維持管理に莫大な経費がかかる恐れがあります。

加えて、この地盤改良工事によって、水の濁りが発生し周囲のサンゴ類等に影響を与えるなど、周辺海域の環境に甚大な被害が及ぶことも想定されます。

また、新基地建設予定地の直下とその近くには、2つの断層が存在しますが、地質学者は、これらの断層が地震発生のリスクが高い「活断層」※3であると指摘しています。

これらの活断層が活動して地震が発生した場合、基地に深刻な被害が発生する恐れがあります。

このように、辺野古新基地の建設予定地には、軟弱地盤と活断層等により多くの問題があるため、基地の建設予定地として適切ではありません。

キーワード

● 軟弱地盤※1

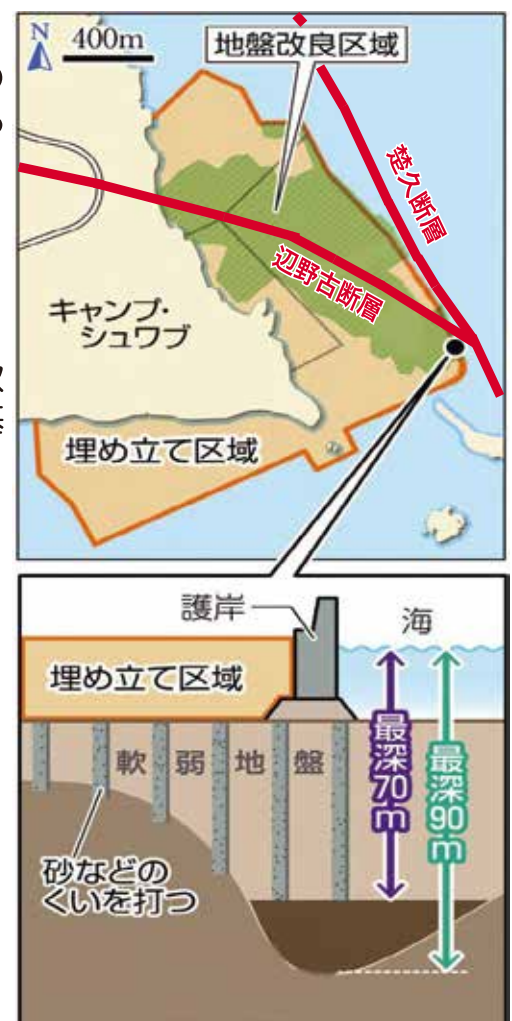
強度が弱い地盤のことであり、その上に建造物を建造すると、地盤の沈下や崩壊が発生する可能性が高く、安全性を確保できない。

● 不同沈下※2

不均一に発生する地盤沈下のことであり、場所により地盤が沈下する幅が異なるため、地盤に起伏が生じる。

● 活断層※3

最近数十万年間に繰り返し活動し、将来も活動する可能性のある断層のことであり、その周辺では地震発生によるリスクが特に高い。



【軟弱地盤の位置図】

図:中日新聞社提供